

令和6年度公共用水域及び地下水水質測定結果の概要

R7. 12 島根県環境生活部環境政策課

県内の公共用水域及び地下水について、「令和6年度公共用水域水質測定計画」及び「令和6年度地下水水質測定計画」に基づき、島根県、国土交通省、関係市町が実施した水質調査の概要は次のとおりである。

1. 公共用水域の水質

(1) 健康項目

人の健康の保護に関して環境基準(健康項目)が定められているカドミウム等27項目について、15河川、3湖沼、10海域の計64地点で測定したが、すべての地点で環境基準を達成していた。

(2) 生活環境項目

水質汚濁の程度を表す生物化学的酸素要求量(BOD)又は化学的酸素要求量(COD)、全窒素(T-N)、全リン(T-P)等12項目について、県内の89河川、3湖沼、10海域において測定した。環境基準の類型あてはめが行われている13河川21水域、3湖沼3水域及び10海域10水域、計34水域における環境基準の達成状況は以下のとおりであった。

ア. 河川

有機汚濁の代表的な水質指標であるBODの環境基準達成状況をみると、21水域中18水域で達成した。

【別表1】

【別表1】 河川の水域別BODの環境基準達成状況(BOD75%値の経年変化)

区分	水域名		環境基準			R1	R2	R3	R4	R5	R6
			類型	基準値	地点数						
広い流域を持つ河川	江の川	全域	A	2mg/l	3	0.8	0.7	1.0	0.8	0.6	0.5
	斐伊川	本川	AA	1mg/l	2	1.1	0.8	1.0	0.6	0.7	0.5
	高津川	上流	AA	1mg/l	2	0.7	0.7	0.8	0.6	<0.5	<0.5
		下流	A	2mg/l	1	0.7	0.6	0.9	0.6	<0.5	<0.5
	神戸川	上流	AA	1mg/l	2	0.9	0.7	0.7	0.6	0.7	0.8
		下流	A	2mg/l	2	1.2	1.2	0.7	0.9	0.7	0.7
都市部を流れる河川	浜田川	上流	AA	1mg/l	1	0.7	0.8	0.7	0.6	0.7	1.2
		下流	A	2mg/l	2	1.4	0.9	1.1	0.9	1.0	0.9
	益田川	上流	AA	1mg/l	1	<0.5	<0.5	0.5	0.6	<0.5	0.6
		中流	A	2mg/l	1	0.6	0.6	0.9	0.7	0.5	0.6
		下流	C	5mg/l	1	8.9	5.4	8.7	9.3	8.1	7.9
	静間川	全域	A	2mg/l	2	1.4	1.2	1.7	1.6	1.1	1.2
	朝酌川	全域	B	3mg/l	1	1.9	1.9	2.3	1.5	1.5	1.4
	山居川	全域	D	8mg/l	1	0.9	2.0	2.2	1.0	1.2	1.5
	馬橋川	全域	C	5mg/l	1	1.7	1.3	2.0	1.8	0.9	1.2
	忌部川	上流	AA	1mg/l	1	0.6	0.9	1.4	0.5	<0.5	<0.5
		下流	A	2mg/l	1	0.9	1.2	2.6	0.8	0.6	0.7
	平田船川	上流	A	2mg/l	1	1.6	2.7	1.4	1.5	1.5	2.4
		下流	A	2mg/l	1	1.8	2.8	1.7	1.9	1.6	1.9
	湯谷川	上流	A	2mg/l	1	1.2	2.1	1.1	1.4	1.2	1.7
下流		A	2mg/l	1	1.3	1.9	1.3	1.4	1.2	1.8	

注) 表中の経年変化数値については、各水域において環境基準地点が複数ある場合は、その中で最も高い数値の地点の値を記載。

また、**太字** は基準達成したもの(経年変化数値の単位はすべてmg/l)

1. 湖沼

中海、宍道湖及び神西湖の3湖沼3水域で、有機汚濁の代表的な水質指標であるCODや、T-N、T-Pの環境基準達成状況をみると、いずれの項目も環境基準を達成しなかった。【別表2】

中海及び宍道湖では湖沼法に基づく湖沼水質保全計画(令和6年度策定)に基づき、水質目標を定め、総合的に対策を進めている。

神西湖についても水環境保全指針(H16年度策定)に基づき対策を進めている。

【別表2】湖沼の水域別CODの環境基準達成状況(COD75%値の経年変化)

水域名	環境基準			R1	R2	R3	R4	R5	R6	湖沼水質保全計画のR10年度目標水質
	類型	基準値	地点数							
中海	A	3mg/l	1 2注)	4.6	4.4	4.9	4.8	4.7	5.2	4.4 mg/l
宍道湖	A	3mg/l	5	5.8	6.5	5.5	4.6	5.7	5.6	4.6 mg/l
神西湖	B	5mg/l	2	6.0	5.6	6.0	5.5	7.3	6.8	—

注1)鳥取県域3地点を含む

注2)表中の経年変化数値については、各水域において環境基準地点が複数ある場合は、その中で最も高い数値の地点の値を記載。

また、**太字** は基準達成したもの(経年変化数値の単位はすべてmg/l)

ウ. 海域

有機汚濁の代表的な水質指標であるCODの環境基準達成状況をみると、10海域中すべての海域で環境基準を達成した。【別表3】

【別表3】海域の水域別CODの環境基準達成状況(COD75%値の経年変化)

水域名		環境基準			R1	R2	R3	R4	R5	R6
		類型	基準値	地点数						
浜田川河口海域		A	2mg/l	3	1.6	1.6	1.6	1.7	1.9	1.5
美保湾		A	2mg/l	2	2.4	1.8	1.8	2.3	1.7	1.8
江の川河口海域		A	2mg/l	3	1.9	1.9	1.6	1.8	1.7	1.9
海岸 出雲部	北浦海水浴場	A	2mg/l	1	1.8	1.5	2.0	1.5	1.7	1.8
	古浦海水浴場	A	2mg/l	1	1.9	1.9	2.0	1.8	1.8	1.8
	おわし海水浴場	A	2mg/l	1	2.0	1.7	1.5	1.8	1.5	1.3
海岸 石見部	波子海水浴場	A	2mg/l	1	1.8	1.5	1.6	1.7	1.7	1.8
	国分海水浴場	A	2mg/l	1	1.8	1.5	1.4	1.8	1.7	1.4
	田の浦海水浴場	A	2mg/l	1	1.5	1.6	1.4	1.6	1.5	1.8
	持石海水浴場	A	2mg/l	1	1.5	1.4	1.3	1.8	1.7	1.9

注) 表中の経年変化数値については、各水域において環境基準地点が複数ある場合は、その中で最も高い数値の地点の値を記載。

また、**太字** は基準達成したもの(経年変化数値の単位はすべてmg/l)

(3) その他の項目

環境基準項目ではないが、要監視項目の32物質について、4河川、2湖沼、2海域で測定したが、指針値を超過した項目はなかった。

2. 地下水の水質

8市町8地点で概況調査(新規調査)を行ったが、すべての地点で地下水環境基準を達成していた。

また、過去に汚染が確認されている1市1地点で継続監視調査を行ったところ、「ひ素」が環境基準を超えて検出されたが、その原因は自然由来であると考えられた。